

天下一統に治り、私の軍に成りかゝる故に年久未だ内
上杉家の領地と成りしより、義光は百遺恨に思召
時節を待たず、所は石田の反逆に依て、其際戦を起し
て終に年来の望を遂げしとまゝなり

朝山峰起并東海林寂上へ歸りし事

去程に義光公ゆづの後は、飽海田川乃二郡越後方に附
き、本庄出雲守重長尾浦乃城に居住して二郡を司る
一所に酒田港より二里計り隔て平田領日山と云所に最
上乃越兵楠統りたりとて、猶又馳きあへり、是東海林見
ず敗軍乃兵を集めて僅に二千人を統りて籠城し、郷民

羽黒高雄の僧徒を僅に一平余入、砂越表より存し、所
を追捕し酒田濱飯盛塚と云ふ所に出張し、越後勢の
陣を漸寺の棚を眼下に見おろして、善戦ふ本庄に座次
置、義光（後武友出羽守）二十余入、棚より二里に外酒田路を
ゆく、敵の後ろを攻めて、善戦ふ、計度筑後土佐林里、豊平
此兵酒田の町口を望み防ぎ、くる、東海林に席を占み、十余人
の内より精兵五十余入、東海林新た馬を大おろして、羽黒
此辨寛高雄の源光とて一騎当千、此者一平に成りて、義
光の陣よりふりて、布衣をまき、武友兵庫に臨み、かきおりの
兵飯盛山に籠りておろし、中間筑前守を勢ひ、十余人